報告書抄録

ふりがな	くろさきじょうあと
書名	黒崎城跡
副書名	屋敷地区急傾斜地崩壊対策法面工事に伴う埋蔵文化財調査報告
巻次	
シリーズ名	北九州市埋蔵文化財調査報告書
シリーズ番号	第623集
編著者名	安部和城
編集機関	公益財団法人北九州市芸術文化振興財団埋蔵文化財調査室
所在地	〒803-0816 福岡県北九州市小倉北区金田一丁目1番3号
発行年月日	2023年2月28日

所収遺跡名（ふりがな）	所在地（ふりがな）	コード 市町村	コード 遺跡番号	北緯	東経	調査期間	調査面積	調査原因
黒崎城跡（くろさきじょうあと）	福岡県北九州市（ふくおかけんきたきゅうしゅうし）八幡西区（やはたにしく）屋敷一丁目（やしきいっちょうめ）	40100	7114	33°52'16"	130°46'24"	20220201～20220218	1,310㎡	屋敷地区急傾斜地崩壊対策法面工事

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
黒崎城跡	城郭	近世	平坦面 造成土 栗石堆積	近世陶磁器 土師質土器 瓦質土器 近世瓦 近現代陶磁器 近現代瓦 ガラス製品	黒崎城東一番帯曲輪の外郭に関連すると推定される栗石の堆積、地山成形による平坦面とその上に盛られた造成土を検出。

要約

遺跡は、八幡西区屋敷一丁目に所在している城郭遺跡である。

調査では、6本のトレンチを設定した。1・2トレンチでは、東一番帯曲輪に近接する地点から、調査可能な下部までの遺構の有無、及び地形確認を行った。その結果、1トレンチでは上部において、石垣石材と推定される栗石や石材の崩落状況が検出された。2･4･5トレンチでは、地山成形によって造り出された等高線にやや平行するスロープ状の平坦面と、傾斜部分の盛土を確認した。3･6トレンチでは、自然地形と考えられる傾斜を検出し、2・4・5トレンチで検出した様な造作は確認されなかった。

また、1･2トレンチの中位から下については、自然地形と考えられる斜面が検出された。

以上の調査成果より、東一番帯曲輪の平坦面は盛土で造成されている可能性があり、石垣の存在も考慮する必要がある。また、帯曲輪外面から約4～5m部分より下位については、自然地形を利用していることが判明した。

この他、破城以降、近世から第二次世界大戦期の遺物が複数出土していることからも、破城以降の黒崎城に関する視点も必要であろう。

いずれにしても、黒崎城の外郭構造等については今後の課題となる。